



す ま い り ん ぐ !

・ 地域で支える医療ガイド ・

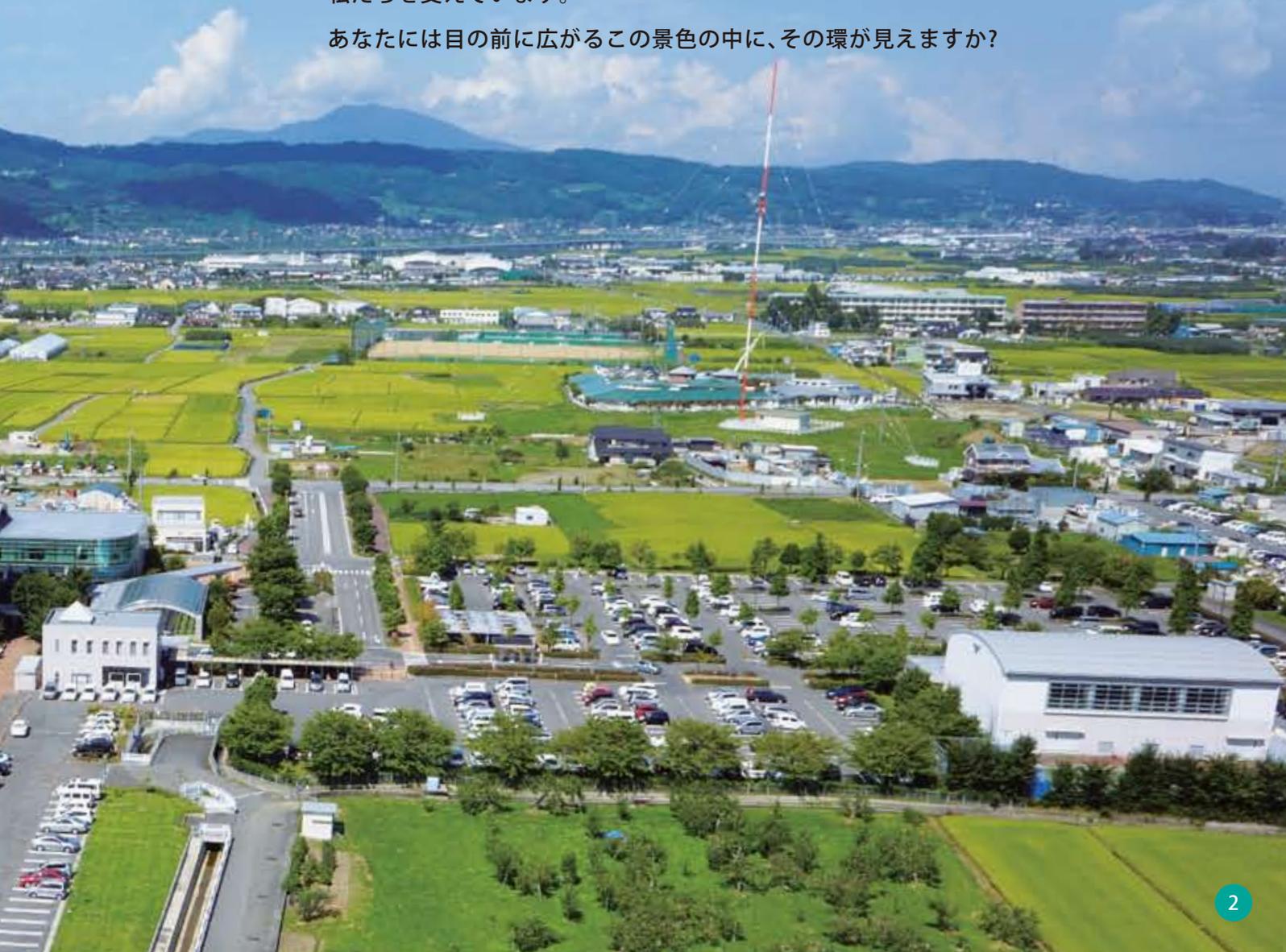




地域全体 [環 リング Rin] で支える医療

私たちが住むこの地域には、いろいろな病院や診療所があります。
それぞれに得意分野があって、環（リング）のように手と手を携えて、
私たちを支えています。

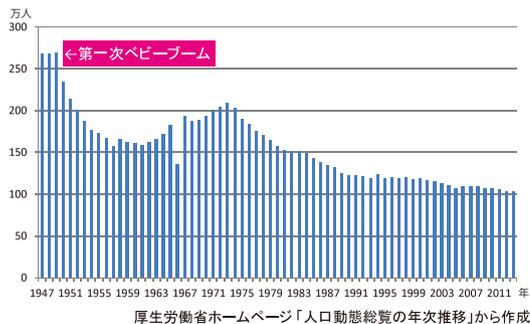
あなたには目の前に広がるこの景色の中に、その環が見えますか？



A photograph showing a caregiver in a red and black uniform supporting an elderly woman with a walker. The woman is wearing a blue and brown plaid shawl and glasses. The scene is set outdoors with a blurred background.

地域完結型医療とは

わが国の出生数の年次推移



長野市民病院はかかりつけ医等を支援し、高度急性期・急性期医療を提供する「地域医療支援病院」です。

ご存じですか？「2025年問題」

終戦後の1947年から1949年にかけて、わが国には第一次ベビーブームが起きて、約800万人の赤ちゃんが生まれました。その頃生まれた赤ちゃんは、2020年の東京オリンピックの5年後に75歳以上の後期高齢者になります。ベビーブーム世代が後期高齢者になり、高齢者人口が約3500万人に達する2025年を、厚生労働省は「2025年問題」と呼んで対策を急いでいます。

私たちの住む地域社会は

将来人口推計によると、長野市の総人口は2010年以後30年間に約8万人(約2割)の減少が見込まれ、2040年の総人口は約30万人になるとされています。その一方で、それまでに65歳以上の高齢者人口の割合は3万人ほど増加して、総人口の4割弱を占めるようになると考えられています。このように、私たちの住む地域社会も、着実に少子高齢・人口減少社会に変容していきます。

これからの医療は「地域完結型」 地域総力を結集して対応

高齢者をきめ細かくフォローするためには、開業医・かかりつけ医の果たす役割が大きくなります。そして長野市民病院のような病院は、それらかかりつけ医を支援する病院(「地域医療支援病院」といいます。)として、手術や緊急入院等を必要とするような高度急性期・急性期疾患を中心に担当します。退院後はリハビリを専門とする病院や、療養を得意とする病院、介護施設、訪問看護ステーション等の施設と緊密に連携・連絡を取りあって患者さんの早期快復と社会復帰を図ります。

このように、地域医療機関が総力を挙げて対処する「地域完結型医療」が、これから求められる医療の姿です。

A healthcare professional in a white uniform is shown from the chest down, bandaging a patient's wrist. The professional's hands are visible, one holding the patient's arm steady while the other applies a white bandage. The patient's arm is extended from the right side of the frame. The background consists of light-colored vertical blinds.

ホームドクター

かかりつけ医をもちましょう



かかりつけ医の一次的役割と重要性

厚生労働省が、患者さんはかかりつけ医でまず診療を受け、必要に応じて大きな病院に行くという仕組みを定着させようとしています。かかりつけ医をもっていると、次のようにメリットがたくさんあります。

1. 継続的な付き合いで病歴を把握してもらえます。
2. 検査や薬の管理も原則として一つの医療機関で行うため、重複を避けることができます。
3. 高度な検査・治療が必要なときは、速やかに専門病院を紹介してもらえます。
4. 家族全員の健康管理もまかせられます。
5. 複数の病気をもつ患者さんも、総合的に診てもらえます。
6. ご近所であれば、通院やご家族の負担も軽くなります。
7. いざという時に、往診や訪問看護をしてもらえる医療機関もあります。

信頼できるかかりつけ医をもっていることは、健康的な生活を送るうえでとても大切です。



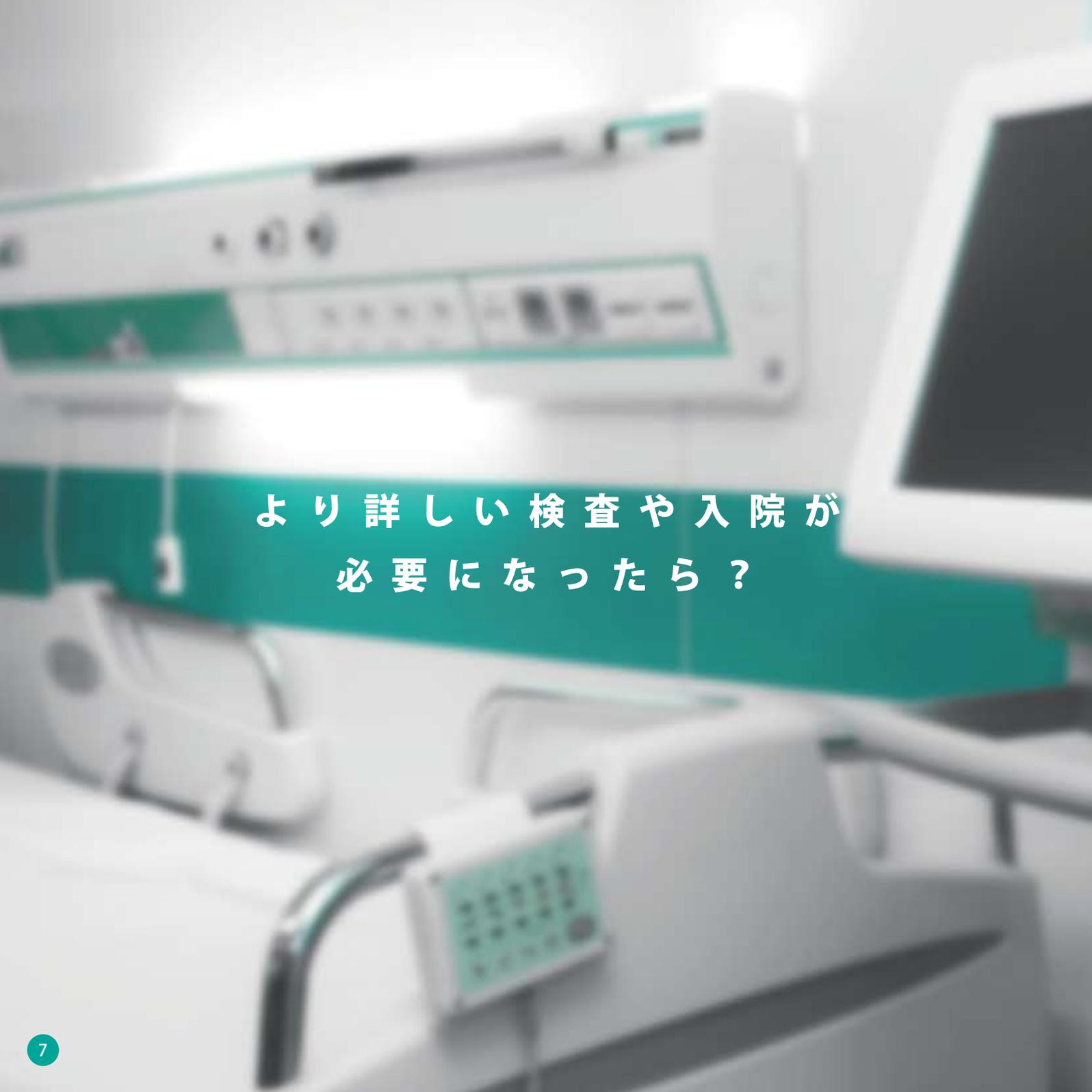
かかりつけ医、どう選ぶ？

では、どのようにかかりつけ医を見つければよいでしょうか。まずはご自宅や職場の近くに診療所がないかどうか確認してみましょう。ご近所だと、生活習慣病等で定期的な通院が必要なときや急病の際に助かります。

さらに、医師はもちろん、看護師などのスタッフが患者さんの話をじっくり聴いてくれて、それに対してわかりやすく説明してくれるかという点も重要です。積極的にコミュニケーションを図ろうとする医療機関は、薬の飲み方を含めて適切に教えてくれるでしょう。

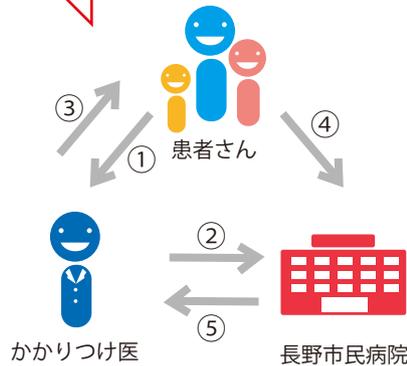
また、より専門的な治療が必要だと判断したとき、適切な医療機関を速やかに紹介してもらえるかも確認しましょう。

医師との相性も大切な要素ですので、まずは第一印象で好感がもてるかで判断するのも一つの方法でしょう。



より詳しい検査や入院が
必要になったら？

長野市民病院は高度急性期・急性期医療を提供する病院として、主にかかりつけ医からの紹介患者さんや救急患者さんを診療しています。



長野市民病院への受診のしかた

- ①患者さんは、緊急の場合を除き、まずは地域のかかりつけ医を受診してください。
- ②かかりつけ医で高度専門的医療が必要と診断した場合は、かかりつけ医が紹介状（診療情報提供書）を長野市民病院へFAXする等して、受診の予約をしてくれます。
- ③かかりつけ医の先生から紹介状をお受け取りください。
- ④指定の予約日時に紹介状をもって長野市民病院を受診してください。
- ⑤受診結果は、かかりつけ医に報告します。
長野市民病院での必要な検査・診療等が終了したら、引き続き、かかりつけ医の先生に診療や経過観察等をお願いすることがあります。

病床機能別に異なる病院の役割

病院は、受け入れる患者さんの病期により、「高度急性期・急性期」「回復期」「慢性期」等に区分されます。地域で医療を完結する（地域完結型医療）には、これらの異なる性格の病院どうしがそれぞれの強みを生かし、協力連携する必要があります。長野市民病院は、かかりつけ医から紹介された急性疾患や慢性疾患の急性増悪等で緊急・重篤な状態にある患者さんに対する精密検査・入院・手術等の高度専門的医療を提供します。

症状の落ち着いた患者さんは、経過観察を元のかかりつけ医へお願いしたり、リハビリの必要な患者さんは回復期病床機能をもつ病院等へ紹介したりします。

長野市民病院の

地域医療連携室の機能と役割

長野市民病院にある地域医療連携室は、地域の医療・介護・福祉関係諸機関との窓口機能を果たす部署です。①「紹介センター」、②「患者サポートセンター」、③「入退院支援センター」の3つのセンターを有し、このうちかかりつけ医からの患者さんの受け入れ（外来予約）は、紹介センターで取り扱います。紹介センターは、かかりつけ医からFAXで紹介状（診療情報提供書）を頂戴し、確認後、速やかに外来予約をお入れします。

入院が決まった患者さんは、計画的に退院できるよう早期から入退院支援センターが支援し、あわせて患者サポートセンターでは、随時患者さんの様々なお悩み・ご相談を承っています。

このように長野市民病院の地域医療連携室は、患者さんの受け入れ、入退院、相談まで一元的にサポートしています。

A woman in a pink medical uniform is handing a white envelope or document to a woman in a white shirt and blue cardigan. They are standing in a brightly lit indoor space, possibly a hospital or clinic. In the background, there are blurred figures of other people and a sign with Japanese text.

紹介状ってなあに？

初めこの方

紹介状をお持ちの方
患者相談窓口

「診療情報提供書」の必要性

紹介状は、正式には「診療情報提供書」といいます。医師から医師への親書（レター）で、患者さんの診療記録や投薬内容等の情報が記されています。受け取った医師も、「返書」を書きますので、その患者さんの病気についての情報は、紹介元と紹介先の両方の医師が共有することになります。必要に応じてレントゲン写真や検査結果データ等も添えられ、これまでの病歴や治療歴もよくわかりますので、診療情報提供書は今後の診療のために医師が必ず欲しい情報です。親書ですので、患者さんご本人に関する情報ですが、医師の同意がない限り原則として患者さんが開封して見ることはできません。

かかりつけ医に遠慮せず
何でも相談してみましょう。



診療情報提供書を

かかりつけ医に書いてもらうには、
どうお願いしたらいい？

かかりつけ医が、患者さんについて急性疾患や慢性疾患の急性増悪等で緊急・重篤な状態で高度専門的医療を受ける必要があると診断した場合は、患者さんの意向を確認・同意のうえ、長野市民病院等の病院に診療情報提供書を用意してくれます。

では、患者さんの側から診療情報提供書をかかりつけ医に書いてもらうには、どうお願いしたらいいのでしょうか。

その場合は、現在抱えておられる一番のお悩みやご不安を、包み隠さず正直に、かつ具体的にかかりつけ医に相談されるのがよいでしょう。日頃からかかりつけ医の指示どおりにお薬を飲んだり、体調を管理されて、かかりつけ医との間で良好な信頼関係を築いていることが大切です。そのような患者さんには、かかりつけ医も理解を示してくれることでしょう。



退院後を見据えて



地域包括ケアシステムの中の医療

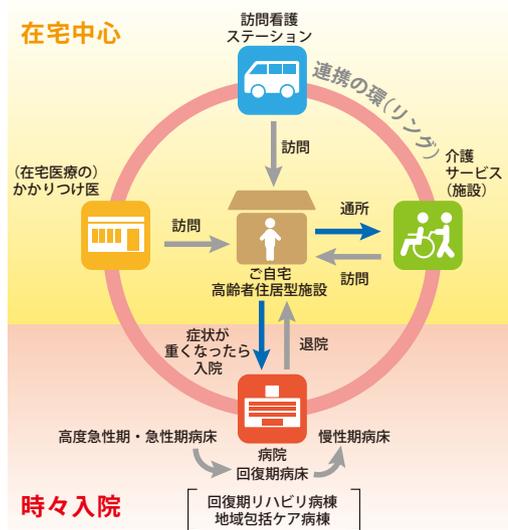
厚生労働省は、団塊の世代が75歳以上となる2025年をめぐに、

- ・高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで
- ・可能な限り住み慣れた地域で
- ・自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう

すまい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される、地域の包括的な支援・サービス提供体制（「地域包括ケアシステム」といいます。）の構築を推進しています。

地域包括ケアシステムが目指す医療の姿は、在宅中心の医療です。医療と介護、行政や地域生活支援の環（リング）で患者さんや高齢者を支えていく考え方が、これからますます重要となります。

これからの医療の姿。



長野市民病院 地域医療連携室 入退院支援センター

長野市民病院の地域医療連携室には、患者さんの入退院を専門に支援する「入退院支援センター」があります。看護師5名、医療ソーシャルワーカー5名、事務職員等2名を配置し、患者さんご家族の支援にあたっています(2015年2月末現在)。患者さんが安心して入院生活を送れるよう丁寧に説明し、退院後の生活を見据えた相談にも早期から対応します。

退院困難な要因がありそうな患者さんについては必要に応じて退院支援計画をつくりバックアップします。

同センターは地域の医療機関のみならず介護施設等とのネットワークや情報もありますので安心してお任せいただけます。

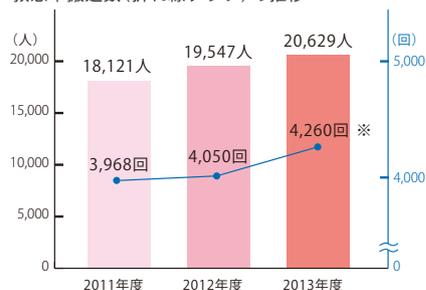


安心な救急医療体制

長野市民病院に救急搬送される患者さんは増加傾向です。



長野市民病院における救急患者数(棒グラフ)と救急車搬送数(折れ線グラフ)の推移



※救急車搬送数 1日平均約12台(2013年度)

長野市民病院の救急医療は、 24時間、365日対応します

平日昼間に具合が悪くなった場合は、まずかかりつけ医にご相談して判断を仰ぐのがよいでしょう。かかりつけ医でより大きな病院の受診が必要と判断した場合は、当該かかりつけ医から病院に連絡をとっていただけます。

長野市民病院救急センター 長野市民病院・医師会急病センター

24時間365日対応する長野市民病院救急センターと、19:00～翌6:00まで対応する長野市民病院・医師会急病センターでは、長野市民病院の医師と長野市医師会の医師との協力体制により救急診療を行っております。緊急受診の際は、下記までご連絡ください。

毎日19:00～翌6:00まで	TEL. 026-295-1291(直通)
上記以外の時間帯	TEL. 026-295-1199(代表)

緊急当番医

休日・祝日は、各医療機関も当番制により診療を行っています。当番医療機関は、日によって異なりますので新聞や下記の方法でご確認ください。

【ながの医療情報ネット】

URL http://www.qq.pref.nagano.lg.jp/qq20/file/link/service_guide.jsp

TEL. 0570-088199(ナビダイヤル)



〒381-8551 長野県長野市大字富竹1333番地1
TEL.026-295-1199(代)
地域医療連携室



長野市民病院

検索 

<http://www.hospital.nagano.nagano.jp/>

2015.2.28